

架け橋

～当たり前のことを当たり前にし、リーダーとして何事も全力でやり遂げる～

人権同和参観日

参観日・学級懇談会、オープンスクールでは大変お世話になりました。参観日の渋染一揆の学習に前後して、人権学習を進めています。参観日のあと、明治維新以降の厳しい差別とそれに立ち向かった人々の話、篠山の酒造出稼ぎにおける差別解消に取り組んだ先人の話などを学習しています。折にふれ、学習したことをお知らせしていきます。

☆保護者の方より☆（貴重なご意見ありがとうございました）

- みんなしっかり意見を言っていた。
- 子どもたちは、自分のことに置き換えて考えることができていた。
- 学習したことを家で話してくれた。難しいこともよく学び、自分なりに理解したことを話せるようになってきた。
- 人権について、いろいろと対等に話ができるようになってきた。
- 差別はおかしい。他人ごととして捉えるのではなく、自分に起こった時にどうしたらよいか、と考えられるようになってほしい。
- 理不尽なことに出くわしたら勇気を持って行動してほしい。優しさを身につけてほしい。
- たくさんの人との出会いによって、弱い立場の人の気持ちを考えられる人になってほしい。
- 年々成長し、しっかり意見を言ったり聞いたりできるようになっている。声かけをするなど、周りを見て動けるようになってきた。

子どもたちの感想

- この勉強をして分かったことは、厳しく差別されても、みんなががんばって何度もかけ合った団結力がすごいと思いました。ぼくはこんな差別を絶対やっちゃいけないと思います。
- 差別されてきた人々は、勇気を出して嘆願書を出したのだと思います。罰を受けるかもしれないのに差し出したところから伝わりました。この計画をした人たちはすごいし、渡しに行った人もすごいです。これは、今までの苦勞が心を強くしていたんだろうなあと思います。
- この話を聞いて差別されてきた人の思い、どれだけ辛かったかが伝わってきました。
- 2日間にわたる交渉、1500人以上の人々で嘆願書を取りついでもらったことが分かりました。
- みんなこんな暮らしをしていたなんて知らなかったです。みんな一生懸命力を合わせたところが素晴らしいです。
- 言葉で何度も何度も粘り続けて書いたところ、命がけて手紙を出し続けたところ、武力ではなく、話

し合いで解決したところがすごいなと思いました。

□ 儉約令もだめだな、と思ったけど、差別された人々への御触書はもっとひどい、めっちゃひどいと思いました。ですがその中で差別された人々はがんばって、手紙や2日間に渡る交渉などをするのが、ぼくはもう驚きました。

□ もしぼくが差別されていたら、絶対に心が折れ、気持ちは死んでいると思います。でも、そういうまちがっていることを命をかけ、教え、やめさせようとする人、そんな存在はやはり大切だと思います。

□ 渋染一揆には、こんなに深い差別をされた人々の思いがつまっているんだなあと思いました。差別をされた人々は命がけでも嘆願書を出そうとしていたところから、それだけ差別をされていることがいやだと思っていたんだなあと感じました。

□ 差別された人ががんばってみんなの力で御触書をなくしてすごいと思いました。今まで逆らうことができなかつたのに、逆らっても御触書をなくしたことから、がまんできないひどい差別だったと分かりました。

□ めげずに嘆願書を書いたりするのはすごいと思いました。